

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 65

学校名・団体名	岡崎市立矢作北小学校
HPアドレス	<a href="http://www.oklab.ed.jp/weblog/kitasyo/">http://www.oklab.ed.jp/weblog/kitasyo/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	自ら進んで考え、地域や学校を大切にする子供の育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>「自ら進んで考える取組」や「地域や学校を大切にする取組」を行うことで、自ら進んで考え実践する力を培い、互いに磨き合いながら、他人や地域・学校のために尽くし大切にする子供を育てる。これまで実施してきた取組の意義や本質を再検討すると共に、校地内の施設や自然を見直し、愛校心を育む校地環境整備を行う。また、郷土長瀬を再発見する学芸会や地域の矢作川をみつめる「矢作川を歩こうプロジェクト」などに保護者や学区の協力も得て取り組み、これまで以上に地域との絆を深めていきたい。</p>	

## 1. 活動時期および内容

### (1) 自ら進んで考える取組

①「学習基盤作りと問題解決的な授業実践」 年間を通して 3人の講師による授業研究を実施した。

毎月「学習基盤作り確認事項」で教師が自己評価しつつ、「朝の読書」「SST」と共に実践を支える土台作りを行った。その上に立って、「互いを認め合い全員が参加する授業や活動」「問題解決的な学習を基にした考え合う授業」に取り組んだ。そうすることで、主体的・対話的で深い学びに繋がり、自ら進んで考えて実践できる子供を育てようと考えた。

②児童委員会による集会活動(企画委員会・各委員会) 年間を通して

児童企画委員会や各児童委員会が企画した集会活動を積極的に行った。集会活動の企画・運営によって、自分たちで考えて行動し、創りあげる心地よい感覚を子供たちは身につけ、より活発に活動できた。

○「希望を抱く会」「希望を振り返る会」 4月25日(火)・27日(木) 3月5日(月)～  
昭和48年度に本校創立100周年を記念して建立された「希望の塔」の前で行った。昨年度までの体育館で全校集会の形で行うよりも、希望の言葉を書く意図や希望の塔を建立した学区民の地元の子供たちへの温かい願いをしっかりと感じ取ることができた。

○「ニューポートビーチ市訪問団歓迎 七夕集会」 7月3日(月)  
アメリカからの訪問団を歓迎する七夕集会を行った。日本の伝統行事である七夕の由来を説明し、七夕飾りや願いごとを書いた短冊を笹竹に飾った。また、本校の雅楽部による「越天楽」などの雅楽曲の演奏と雅楽器による現代曲の演奏も行った。訪問団は雅楽に触れて感激していた。



### (2) 地域や学校を大切にする取組

①「郷土学習の日」から始める5年米作り学習

5月1日(月)～

学校田で、田起こし・代掻き・田植え・稲刈り・はざかけ・脱穀などの作業を手作業で体験することができた。また、トラクターやコンバインなどの機械作業も見学することで、現代農業についても学ぶことができた。本校区は、稲作を中心とした農業地域であったが、急速な宅地化により農地が減少している。伝統の稲作を体験させたいという地域の願いもある。郷土の現代史を学ぶきっかけにもなったものと考えられる。もち米を栽培し、12月には協力者への感謝の会・学級ごとの学習発表会を兼ねて「ふるさともちつき大会」を保護者などの協力を得て行った。



②「ふるさと長瀬・岡崎・日本再発見!学芸会」 10月14日(土)

《5年ふるさと音楽劇》長瀬の歴史に触れながら、岡崎・日本を再認識する音楽劇を行った。地元の和太鼓演奏団体の支援を受けて、和太鼓演奏や故郷の歌の演奏も取り入れた。学芸会でのふるさと音楽劇の学習を通して、故郷である「長瀬」そして、「岡崎」を大切にする想いや心を醸成することができた。《雅楽部の演奏》日本に1校しかないと思われる部活動の「雅楽部」。地域の長瀬楽人会の支援を受け、日本の伝統である雅楽曲の演奏と共に、雅楽師 東儀秀樹氏の助言もいただきながら、現代曲の演奏にも挑戦している。学芸会では、「舞い」にも挑戦し、ドラムやピアノ等を入れて現代曲の演奏を行った。



③「矢作川を歩こうプロジェクト」(6年生:142人) 2月23日(金)

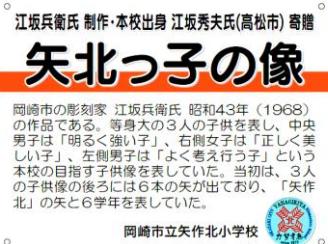
本校の学区東側には、一級河川の矢作川がある。学区や学校は矢作川右岸の沖積低地で、かつての「長瀬」という地名の場所にある。大昔の矢作川はいく筋もの流れがあり、長い「瀬(流れが速く水深が浅い場所)」のようであったためについた地名だと言われている。このように矢作川の恩恵を受けた農業地帯の学区も宅地化され、大河であるため水難事故を防ぐために矢作川に近づくことも少なく、子供たちは矢作川の存在すら忘れるほどである。そこで、郷土長瀬の地を創りあげた矢作川の鼓動を肌で感じ、故郷や母校を愛する心や、何事にも挑戦して、やり遂げる強い心をもってほしいとの願いを込めて、矢作川の河口を実際に見た後、約20kmを学校まで歩いて戻る「矢作川を歩こうプロジェクト」を行った。参加した全員の子供が歩ききることで、投げ出さずやり遂げる素晴らしさを学ぶことができた。



④地域コミュニティの中心としての愛校心を育む校地環境整備

年間を通して

《ながせ やきたっこ ガーデン》本校の中庭にはビオトープ風の池があり、周辺は草刈もできるだけ行わないようにしている。同様に校舎北側の大木のある庭も、できる限り落ち葉を敷き詰め自然の状態にしている。このようにすることで、校地内で自然を体験できるようにした。5年の学級が中庭を「ながせ やきたっこ ガーデン」と名付けて総合的な学習などでビニールハウスを撤去して再整備を行った。観察しやすいビオトープ風な池の整備、生き物とのふれあい体験できる水中眼鏡の設置やベンチ・テーブルの設置、植物や動物の名前等の表示板設置など、子供たちが楽しく校内で自然観察ができるように整備できた。《校地内備品由来表示》本校は創立144年の歴史があり、校地拡張・校舎増築を繰り返してきたため、設置された場所から移動されたものも多く、校地内に由来の分かりにくいものがある。そこで、各種資料から作成した説明板を備品近くに設置することで、子供が名前や由来を理解し、本校の長い歴史を感じつつ母校に親しみをもてるようにした。



⑤地域防災を考える「長瀬体験村」「学区防災訓練・親子防災学習会」

8月26・27日(土・日) 10月29日(日)

PTA・学区と協力して実施した。親子で避難所宿泊体験をしたり、防災関連ブースを見学したり、親子で防災学習に取り組んだりした。体験を通して、地域防災への関心を高め、高学年は災害が起きたら地域の力となる行動や準備を学ぶことができた。



⑥「トイレ掃除に学ぶ会」 12月9日(土)

西三河掃除に学ぶ会の指導を受けて、まごころくらぶ(PTAおやじの会)が実施した。保護者と共に子供たちも部活動単位で参加した。黙々と掃除に取り組む姿が多く見られ、もっと磨きたいと述べる子供もいた。しっかり清掃する姿と共に、きれいに使う行動が見られた。



2. 活動によって得られた成果(子供たちへの効果)

学習基盤作りと問題解決的な授業実践にしっかりと取り組みつつ、保護者や学区の協力を得ながら体験的な活動を展開することによって、自ら進んで考えて実践し子供自らの心に響く活動にすることができた。そうすることで、母校を愛し故郷「長瀬」をいつまでも大切にしようと考え、実践できる素地を培うことができた。「生き物が観察できる中庭にして1年生に見てほしい」「テーブルや椅子があると調べやすい」などと子供たちは自ら進んで考え、地域や学校を大切にできる地域になくはない人材となりつつある。地域や学校を愛し大切にすることをベースにして、さらに継続して活動を行うことで、子供たち自ら、岡崎・日本・世界へと繋げ、これから未来まで地域と共に生きる確かな人材に育つものと考えている。